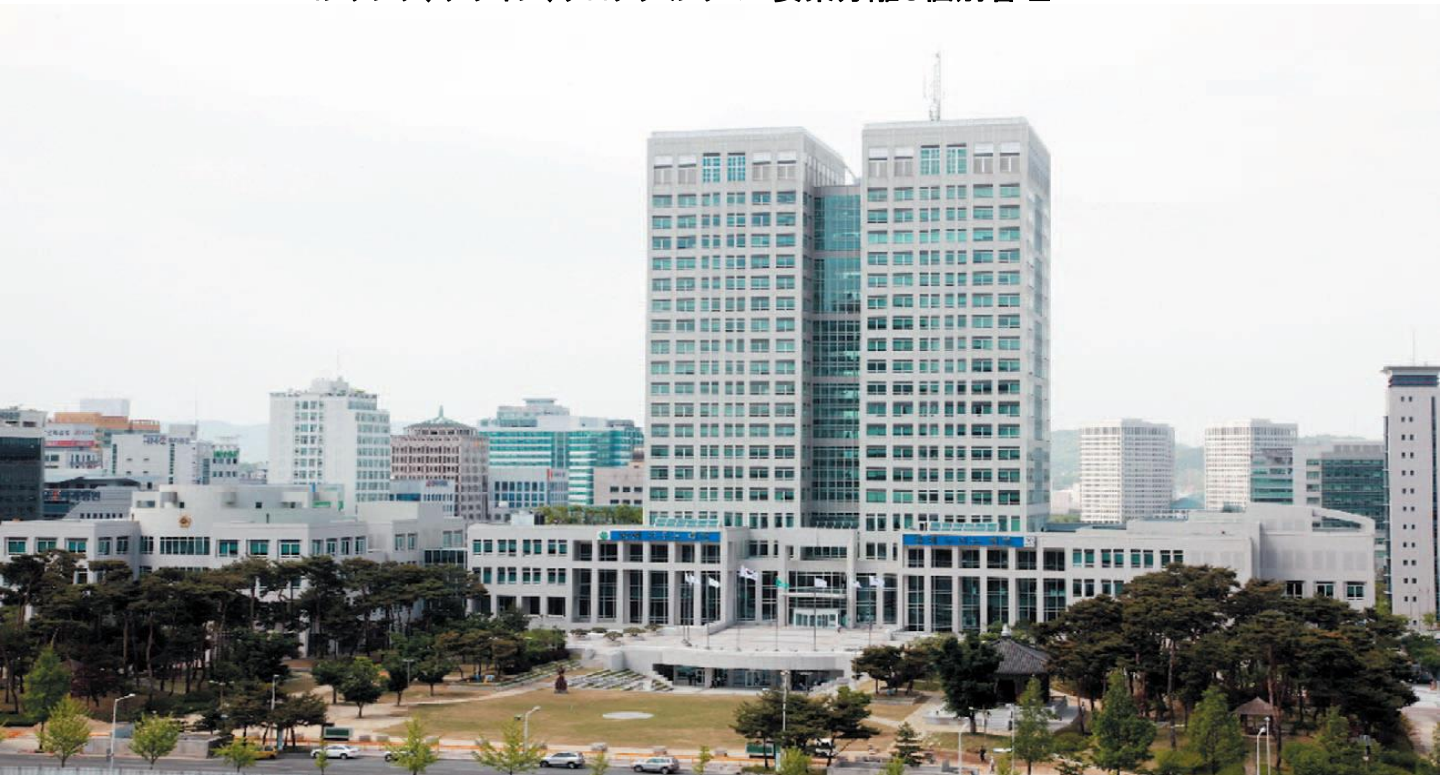


大田広域市役所、効率的なウェブ管理体系の構築で ホームページ運営管理の最適化

アイオンコミュニケーションズの I-On Content Serve 5の導入、
コンテンツ、デザイン、プログラミングの3要素分離し個別管理



CMS(Content Management System)

CMSはエンタープライズ級のe-ビジネス企業で付加価値を期待できるすべての情報の基本単位であるコンテンツを体系的で一貫性ある単一システムで管理し効率と生産性を付与するシステムである。コンテンツの生産から消滅に至る一連のライフサイクルから発生する反復的、受動的、分散的な作業を自動化、高速化、高効率化し低費用で体系的なコンテンツ管理をするようにサポートするウェブサービスの必須基盤ソリューションである。

企業は ▲ IT専門家でない人も手軽にウェブサイトのコンテンツを変更することはできないか。 ▲ 一回作られたコンテンツを保管し他のサイトで再活用することはできないか。 ▲ 多数の組織、多数の地域、多数の部署で共に効率的にウェブサイトを運営する方法はないか。 ▲ 単純運營業務を自動化させ、新規のサービス及びコンテンツの企画、開発などよりもっと核心的な業務に集中できる方法はなんなのか。などに対する解決点を探し出すため絶え間ない方法論を研究している。

CMSはこのような問題点解決にお手助けになる。CMSを導入する企業は ▲ 単純運營業務処理時間の短縮 ▲ 全体的な運営負担最小化 ▲ サイトの競争力になる核心力量の集中 ▲ 円滑な協業及び分掌支援 ▲ 生成/蓄積されたコンテンツの持続的な再利用(内/外部サイトなどの効果を得ることが出来る。

大田広域市役所はCMSを土台で効率的なウェブ管理体系を構築しホームページの運営管理の最適化の効果をえた。大田広域市役所はI-ON Content Server 5 を導入にコンテンツ、デザイン、プログラミングの3要素を分離し個別管理をしている。大田広域市役所は今回のプロジェクトを通じコンテンツの作成者、コンテンツ承認者に業務の便宜性を提供したという評価を得ている。コンテンツの作成者の場合HTMLなどの実務知識が足りない部署の担当者も手軽にサービスに必要なコンテンツを編集、登録、管理するようになり、迅速で正確な情報提供が可能になった。

大田(テジョン)市役所が‘ホームページのウェブコンテンツ構築及びウェブ管理ソリューション導入’プロジェクトでホームページを再構築した。大田市役所は障害者差別禁止のためのホームページウェブコンテンツ構築及び機能補強に出てアイオンコミュニケーションズの I-ON Content Server 5(以下 ICS 5)を取り入れカスタマイジングを実施した。これを通じ大田市役所は効率的なウェブ管理体系を構築しホームページ運営管理の最適化と障害者を区別しない便利で気配りのあるサイバー市政を具現したという評価を受けている。

人口149万6,162人の大田市は今年で市の船出60年、広域市昇格20年を迎えた。大田市は先端科学の揺りかごであるテドック研究団地を保有している研究開発の核心都市だ。政府大田庁舎、教育司令部、軍需司令部などが大田に位していて3軍の本部が接している国家正義中枢都市でもある。また鉄道、高速道路、国道など広域交通網を備えていて2時間以内に全国主要都市への接近が可能である。

大田市は今後24個の推進戦略を通じ地域の経済価値の創造、バランスのある都市への発展、自然親和の環境造成、都市の交通体系の革新、社会の福祉機能の強化、文化支援の育成発展などを成すという目標を立てている。

ホームページ運営

管理の最適化のためのウェブコンテンツ管理システム導入

大田市役所は効率的なウェブ管理体系を構築するためにアイオンコミュニケーションズの ICS 5を取り入れる前、ウェブコンテンツ管理システムを SI で構築して使っていた。しかし、このシステムはサービス運営と管理時、さまざまな問題が発生した。一度作られたコンテンツを保管してリサイクルする作業が不可能であって多数の部署から一緒に効率的にウェブサイトを運営するのが出来なかったからである。また単純業務を自動化し新規サービス及びコンテンツの企画、開発などより核心的な業務に集中することも難しかった。

これに大田市役所は障害者とは非障害者が差別なしに利用できる平等権が保障されたホームページを再構築しホームページの運営管理を最適化するためのウェブコンテンツ管理システム(WCMS)を取り入れる事にした。去年‘障害者の差別禁止及び権利規制に関する法律’施行により決まった事項である。

また、ウェブ 2.0 時代に合うサービス中心のカスタマサービスが必要だったことも推進背景の理由だった。ホームページを普遍的に接近可能なサービス体制で改編し能動的で機能性のあるウェブサービスへの体制の切り替えようとしたのである。そして総合的で効率的なコンテンツ管理の必要性が頭をもたげたのも構築の主な理由だった。

WCMSはエンタープライズ級のe-ビジネス企業で付加価値が期待できるすべての情報の基本単位であるコンテンツを体系的で一貫性のある単一システムで管理し効率性と生産性を付与するシステムである。コンテンツの生産から消滅に至る一連のライフサイクルから発生する反復的、受動的、分散的作業を自動化、高速化、効率化してより低費用で体系的なコンテンツ管理ができるように支援してくれるウェブサービスの必須基盤ソリューションだといえる。

コンテンツを内、外部サイトに再活用可能

大田市役所は今回のプロジェクトを進行しながら GS(Good Software)認証、行政ネットワークソフトウェア認証、ISO9001認証などを受け対内・外的に品質の優秀性を検証うけることはもちろん各種大型コンテンツサービスサイト及び公共機関からコンテンツ管理の優秀性及び効率性を認められたアイオンコミュニケーションズの I-ON Content Server 5(以下 ICS 5)を取り入れる事にした。

「アイオンコミュニケーションズの ICS 5は国内はもちろん日本市場でシェア1位を占めていて性能及び安全性の面で信頼し、特にウェブの構成要素であるコンテンツ、デザイン、プログラミングの3種要素を分離してこれを個別管理するようにして既存ウェブサイト管理方式の限界点で指摘された各担当人力間の業務のボトルネック現象(支障)、コンテンツの再使用不可、非体系的なサイト管理の問題点を乗り越えられることが高く評価され、ICS 5は特にコンテンツを内、外部サイトに再活用が可能だという点が魅力的だった。

ICS 5はアイオンコンテンツサーバーに蓄積されたすべてのコンテンツとデザインテンプレート、プログラム要素をすべてバージョン別に管理する。その結果サイトの管理者は必要な場合いつでも以前のバージョンにコンテンツ及びサイトデザインを取り戻せる。すなわちサイトの過去と現在、未来を資産化して体系的に管理できる。コンテンツの生成・受付、修正・審査、照会・分類、保存・登録、掲示・配信、削除・保管などの業務統合管理が可能なのも ICS 5 導入の理由だと言える。大田市役所のホームページが市民を相手とするサービスなのでコンテンツの要望が随時に入ってきて、こうした理由で今後ともすぐ対市民サービスが出来る1年維持管理の形態で進行する予定だ。」大田市役所情報化担当官室 ヤン・ボヒョン主務官

【お問い合わせ】

ユーザーに業務の便宜性提供

大田市役所は今回のプロジェクトを通じコンテンツの作成者とサイトの管理者、コンテンツの承認者に業務の便宜性を提供したという評価を受けている。コンテンツの作成者の場合HTMLなどに対する実務の知識が足りない部署の担当者も手軽くサービスに必要なコンテンツを編集、登録、管理できるようになり迅速で正確な情報の提供が可能になった。既存のワープロと使用方法がほとんど類似なコンテンツ編集用エディタを内蔵してコンテンツの作成者は易しくウェブページを生成するようになった。また分、時、日、週などの多様な組合でコンテンツのサービス時点及び配信期間を設定することができてサービスの無欠性の保障ができる。尚、コンテンツ変更の時随伴される関連コンテンツの間のリンク修正はサービスの無欠性と直接的な関連がある重要な作業だ。ICS 5ではコンテンツが追加または削除される場合サイト内での連関関係を分析し該当のリンクを自動的に生成したりと削除してくれることにより損失されたリンクの情報によるサービスのエラーを最小化できる。

また、サイトの管理者の場合テンプレート基盤のサービス構造を通じデザイン・ナビゲーションの統一はもちろん今後のサイト改編時既存のデータをそのまま活用可能になった。HTML基盤のテンプレートの作成言語の提供を通じデザイナーの作業だけでもウェブページの構成に必要な多様なテンプレートを自由に組み合わせてサービスページを構成するようになりデザインテンプレートを易しくて速く生成するようになった。また既存FTPを利用したコンテンツ配信方式ではないコンテンツ自動配信機能を活用して迅速で安定的なコンテンツ配信はもちろんサービスの無欠性も保障を受けるようになった。コンテンツの承認者はオンライン上で承認が可能でいつでもどこでもコンテンツの承認が可能になりコンテンツの配信の前にサービスされる内容を実際の場面そのまま確認することもできる。

尚、ICS 5で提供される承認体系はすべてウェブ基盤に具現されている。したがって承認者はウェブブラウザを通じてすぐ該当のコンテンツに対する承認作業をこなす事ができる。どんな場所からでも承認及び揭示の作業が出来るので承認者の位置にかかわらず速やかにアップデートしたコンテンツをサービスするようになった。この以外にもあらかじめ設定された承認体系により順番どおり承認を得なければならない直列の承認体系、複数の同時承認者を要する並列の承認体系、担当者によりすぐ反映される単独の承認体系など各組織及びサービスに相応しい多様な承認体系の設計と運用が出来る。

速度と安定性度の向上

「ホームページを再構築してWCMSを取り入れた後得た効果を数値では言いがたい」(ヤン氏) と前提しホームページ利用率を見ると去年8月末まで80万人が接続したが今年現在まで203万人が接続したことがわかったとした。これは速度と安全性の向上した結果ではないかと言うことが彼の説明だ。

以外にも大田市役所はサービスの効率的な管理及び品質向上などの効果をおさめたと分析される。エラーの減少、関連コンテンツ間の連携が容易でコンテンツの品質が向上され利用者別最適化された個人化サービス提供も可能となった。また ビューHTML生成及びキャッシングを通じるサービス速度も向上した。

また運営効率性を基盤とした生産性も向上したことがわかった。ワークフローの基盤のコンテンツ生成及び管理を通じてサービスの運営者の間の業務の重複、業務の滞積、業務の受動化をCMS システムが担当し付加価値が高い業務に人力を再配置するようになったのである。それとともに専門家水準のウェブ管理体制をWCMSを通じて普遍的な管理水準に切り替え今は全職員が本人の業務に当たるウェブコンテンツを本人が直接入力、修正など管理するように運営している。

しかし大田市役所はカテゴリーの仕分けを改善しなければならない事項と指摘した。機能を正確にプロセス別に分けて分類したほうが良いということが彼の説明だ。また大田市役所は一般企業と違って総合行政なので各業務別に連係性が相対的に少ない方と言いながら市政のお知らせのような告知事項はその時ごとに見せなければならないのに今はデブロイを何度もしなければならぬ困難があるとこれも改善しなければならないと言った。以外にもスキン機能も大田市役所の要求事項である。現在はICS 5のDOSモジュールの形態でインターネットを管理することをウインドウ形態にしたら使用者が使いやすくなるのではないかといいことだ。

見て聞いて感じるホームページを構築すること

「大田市役所は今後のホームページの安定化及び市民の関心誘導のため見て聞いて感じる事ができるホームページを作る。またウェブ標準化、ウェブ接近性の向上のために持続的な関心を持って運営する。尚、ICS 5には機能が多くの反面、限定された機能だけ使う場合が多い」(ヤン氏)

このために大田市役所はウェブ接近性のパッチを来年に追加する計画で内部的な教育を通じこれを解決する予定である。

【お問い合わせ】